

心ふれあう

ちょっと

おかやまのちょっといい話

シリーズ ⑪

※チラシは偶数月の第一月曜日に皆様にお届けしています。過去のシリーズはアーバンホールのホームページでもご覧いただけます。

晴れの国おかやま

24時間・100キロ歩行

私の人生の中でも五指に入る印象的な体験。

私が参加した24時間100キロ歩行はその一つでした。毎年GWに開催されているイベントです。

飲んだ席で熱心に知人に誘われて根負けしたのが正直なところです。ダイエットも兼ねて練習をして、本番に臨みました。

当日はいい天気で、とても気持ちの良いスタートでした。30キロまでぐらいい暑いながらも順調に知人とウォーキングです。40キロくらいになると次第に日も暮れて来て、涼しく、疲れてはいるものの、まだまだ、という感じで自分でも驚くほどでした。

ところが、45キロくらいでしょうか、足の裏に違和感を覚えて、休憩

のときにソックスを脱ぐと、水ぶくれができていました。(しまった、練習の時にできなかったところだ)と思っても後の祭りです。違和感を感じながら歩き続けましたが、あるところで、水ぶくれがつぶれたのでしょう。痛みが出るようになりまして。

疲労も溜まってその頃から一緒に歩いてきた知人に次第に遅れをとるようになり、55キロくらいの所で、先に行ってもらう事にしました。

しばらくは一人で歩いていたのですが、後ろから追いついて来た20代の青年と一緒に歩くようになりました。初対面でしたが、お互いの身の上話をしたりしながら歩きました。痛い右足をかばって歩いているうちに左足の付け根も痛くなってきました。休憩をしながら夜中も夜通し歩きます。5月のまだ冷える夜、お互いに励ましあいながら夜明

けを迎えました。その朝日の輝きは鮮明に思い出されます。

しかし、いつ倒れてもおかしくないくらいポロポロです。ボランティアスタッフの方はコースのいろいろなところに立って誘導してくださいます。「頑張ってください」の一言がどれだけ力になるか。だんだんと足も上がらなくなってきました。

普段なら、何ともしない道の傾斜や段差がすごくつらい。毎日のただ歩くという当たり前が、当たり前でなくなり、普段なら気にも留めない一言に救われます。まるで世界がひっくり返りました。もう歩けないと思いながらも引きずる足を一歩踏み出せば、その分だけゴールが近づいてきます。23時間25分かけてゴールしました。最後まで一緒に歩いた青年がいなければ私は歩けなかったでしょう、路上で応援してくれたボランティアスタッフの方、電話で応援してくれた友人、応援に駆け付けてくれた家族、その全てが私を歩かせてくれました。「感謝」の言葉以外、私の心にはありませんでした。

歩いたのは自分です。でも自分だけで歩けたわけではありません。終わった今、こんなにもつらかったのに、知人に勧める自分がいまいました。来年は、今年の自分を越えるべく挑戦しようと考えています。



あなたのアーバンホール

アーバンホール

葬儀・法要・ギフト

今一度、身の回りの当たり前に感謝してみましょう。とても恵まれていることに気が付くはず。青い鳥は誰しも心のなかにすでに住んでいるのです。

幸せだから感謝するのではなく、感謝するから心に幸せが生まれる
作者不詳

皆様の『心ふれあう おかやまのちょっといい話』をお寄せください。

ご応募いただいた優秀な作品はアーバンホールのホームページ上・チラシなどにてご紹介させていただきます。ご意見・ご感想もお待ちしております。またご応募いただいた方全員にささやかながら粗品を進呈させていただきます。
◆応募先/アーバンホール「ちょっといい話」係 〒710-0841 倉敷市城南805-1 ◆記入事項/①住所②氏名③電話番号④年齢⑤エピソードご応募の方は1200文字程度(原稿用紙・ワープロいづれも可)にてお願い致します。尚、作品の返却はありません。